

2023年12月15日
損害保険ジャパン株式会社
SOMPOリスクマネジメント株式会社
古河電気工業株式会社
古河電工産業電線株式会社

【業界初】太陽光発電設備の銅線盗難対策として アルミ導体ケーブル活用を促進する新サービスの提供開始

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：白川 儀一、以下「損保ジャパン」）およびSOMPOリスクマネジメント株式会社（代表取締役社長：中嶋 陽二、以下「SOMPOリスク」）は、近年多発する太陽光発電設備の銅線（以下「銅導体ケーブル」）盗難により被害に遭ったお客さまに対し、古河電気工業株式会社（代表取締役社長：森平 英也、以下「古河電工」）と古河電工産業電線株式会社（代表取締役社長：小塚 崇光、以下「古河電工産業電線」）が開発・製造し、SFCC株式会社（代表取締役社長：川瀬 幸雄）が販売するアルミ導体ケーブル「らくらくアルミケーブル®」を紹介するサービスの提供を、2023年11月1日に開始しました。

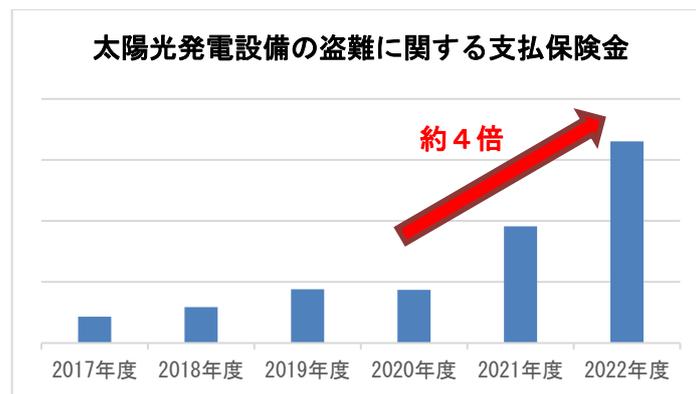
太陽光発電設備の銅導体ケーブルの盗難被害に遭われたお客さまに「らくらくアルミケーブル®」を紹介するサービスは損害保険業界初の取組みです。（2023年12月損保ジャパン調べ）

※「らくらくアルミケーブル®」は日本における古河電工の登録商標です。

URL：<https://www.rakuraku-alumi.com/>

1. サービス開発の背景と目的

世界的に銅の価格高騰が続いていることを背景に、銅導体ケーブルを大量に使用する太陽光発電設備における大規模窃盗事件が相次いでいます。犯人の検挙も進んでいますが、それ以上に窃盗団数が急増していることから、損保ジャパンでは、太陽光発電設備の盗難に起因する2022年度の支払保険金は2020年度の約4倍に増加し、太陽光発電設備に関する大きなリスクとなっています。



また、銅の需要の高まりなどに伴う銅導体ケーブルの供給不足により、太陽光発電設備の早期復旧に支障が出ており、電力安定供給への影響も懸念されています。海外ではアルミ導体ケーブルの普及が進んでいますが、アルミ導体ケーブルの敷設には専門的な知見と技術が求められるため、日本では普及が遅れているのが現状です。

損保ジャパンとSOMPOリスクは、銅導体ケーブルの盗難被害に遭われたお客さまに「らくらくアルミケーブル®」を紹介し、古河電工産業電線が施工業者に対するコンサルティングを行うサービスの提供を2023年11月1日に開始しました。銅導体ケーブル盗難対策の1つであるアルミ導体ケーブルの利活用を推進し、早期の復旧と盗難の再発防止を図ることで、太陽光発電による電力の安定供給に貢献します。

2. 本サービスによるお客さま・社会への貢献

(1) 太陽光発電設備の早期復旧

銅の需要の高まりなどに伴う銅導体ケーブルの供給不足により、太陽光発電設備の銅導体ケーブル盗難被害時における復旧期間が半年以上かかるケースも発生していますが、供給が安定している「らくらくアルミケーブル®」の活用により、早期復旧が可能となります。売電再開を早めることでお客さまの減収を抑える効果が期待できます。

(2) 盗難防止

「らくらくアルミケーブル®」は、銅導体ケーブルに比べて転売価格が低く、転売数が少ない傾向があります。窃盗団を捕捉する手がかりとなりやすいため、「らくらくアルミケーブル®」の使用は、盗難防止効果が期待できます。また、銅導体ケーブルで復旧した場合は、同一の発電所が再び盗難の被害に遭う危険があるため、再犯を防ぐ効果が期待できます。

(3) 建設作業員の負担軽減にも貢献

銅導体ケーブルよりも圧倒的に軽い「らくらくアルミケーブル®」を使用することにより、建設作業員の身体的負担が減るため、従来よりも少人数で作業が可能です。不足しがちな建設作業員数に起因する問題の解決に貢献するとともに、工期の短縮も期待できます。

「らくらくアルミケーブル®」の敷設にあたっては、古河電工産業電線が施工業者に対して技術支援も行うため、初めてアルミ導体ケーブルを敷設する施工業者の皆さまにも安心してご利用いただけます。

「らくらくアルミケーブル®」



3. 今後について

損保ジャパンとSOMPOリスクは、アルミ導体ケーブルの専門的な知見を持つ古河電工および古河電工産業電線と連携して、電力の安定供給の阻害要因となる太陽光発電設備の盗難からお客さまを守り、カーボンニュートラルの達成を後押ししてまいります。

以上